

新連載

よみがえる彩色

歓喜院聖天堂

「妻沼の聖天さま」として親しまれる妻沼聖天山。来年6月には、本殿の聖天堂が7年をかけた修理工事を終え、ついに250年前の創建当時の姿を表します。

そこで、今月から数回にわたり、妻沼聖天山や聖天堂についてご紹介していきます。

第1回 「境内のみどころ紹介」

境内に入り、始めにお目見えする大きな門、**貴惣門**(国指定重要文化財)をくぐり、参道を進むと右手に見えてくる老武者の像は、熊谷直実や畠山重忠と並ぶ、源平合戦の英雄で、聖天山を開いたとされる**斎藤別当実盛**です。若者に侮られまいと白髪を染めて最期の戦いのぞむ場面は有名で、戦前の小学校の唱歌にもなりました。

さらに進むと、**四脚門**(市指定文化財)が現れます。聖天山は数多く火災に遭っていますが、四脚門は一番古くから残った建物で、400年近く前の姿を残します。

境内に散在する石碑にも注目です。境内の南にある**歓喜院前の板碑**(県指定文化財)は、鎌倉時代のもので、長野県の善光寺の仏様を彫った珍しいものです。

四脚門、さらに**仁王門**をくぐると眼の前には、現在保存修理が大詰め**の聖天堂**(国指定重要文化財)が姿を現します。仁王門の左右に立つ**金剛力士像**は、市内でよく見かける防犯ポスター「監視の目」のモデルです。貴惣門と聖天堂については、次号で詳しくご案内します。

◆社会教育課 市史編さん室 TEL 048-567-0355



斎藤別当実盛像